

「日々の理科」(第2460号) 2021,-4,-6

「1・2・おばけ!(2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

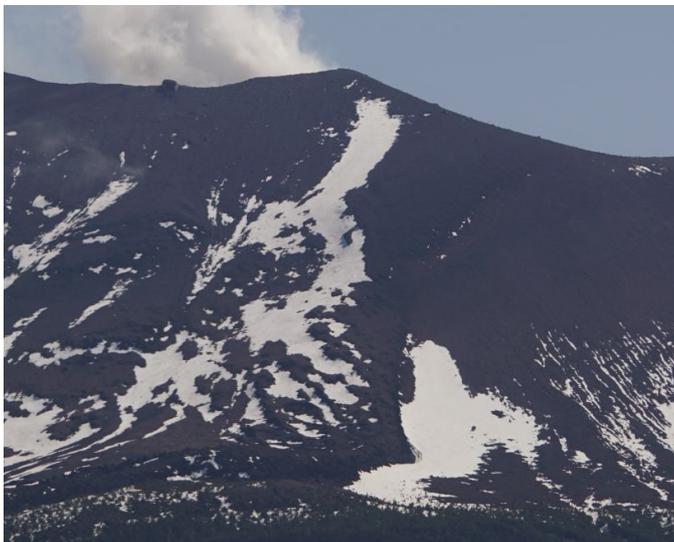
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

浅間山の雪どけは日ごとに進み「1・2・おばけ」も少しずつはっきりしてきた。しかし、はっきりとその姿が見えるのは、毎年一週間程度である。



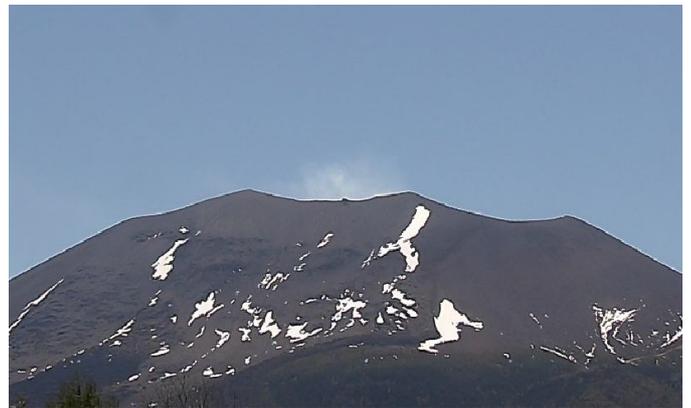
これが2021年4月5日の浅間山の様子である。山頂の噴気直下から、数字の「1」その下に「2」その右下に「お化け」がはっきり見えてきた。



「1・2」のほうは地元にもあまり認識されていないが、「おばけ」のほうは広く知られている。しかし地元(山麓)では「おばけ」ではなく「逆さ馬」と呼ばれている。私にはどう見ると馬に見えるのか、どうもよくわからない。今年の「逆さ馬」は、「おばけ」でも「馬」でもなく、「鳩がはばたいた姿」のようにも見える。山頂の火口壁にのっかっている「岩」は「千トン岩」と呼ばれている。巨大な火山岩塊で、実際は三千トンぐらいあるらしい。



いくら説明を聞いても「1・2・おばけ」に見えないという方の為に、残雪の模様にも色をつけてみた。「1・2」はよくわかるようになったと思うが「おばけ」がおばけらしくないかも知れない。



更に雪どけが進むと、ほとんど「1・2・おばけ」だけが残る。



「おばけ」の部分を90°回転させてみると、今度は「水鳥」に見えてきた。「馬」になったり「水鳥」になったり、人によっては「スノーボーダー」に見えたり、やっぱりこの残雪は「おばけ」であった。